

花乃井だより

学校
通信

令和4年4月27日(木)
第84号
大阪市立花乃井中学校

いよいよGWです!!

早いもので4月もう終わり。新学期が始まって3週間がたちました。校内の草花も今ではつつじがきれいに咲き誇る時期となりました。

皆さん、新しいクラスや新しい学校生活には慣れましたか？ これまでの緊張がここで少し緩んできて、トラブルも発生しやすい時期となります。学級活動や部活動、学校外での諸活動の中で、友達などとの関係に困ったことは起きていませんか？ 皆さんは決して一人ではないのです。何かあれば一人で悩んでいるのではなく、先生方に、そしてお家の人に必ず相談してみましょう。きっと解決の糸口が見つかるはずです。



また、学校生活に少し疲れが見え始める時期でもあります。感染症対策もちろん大切ですし、これからは熱中症にも気を抜けません。早寝・早起き・朝ごはんを励行し、疲れた時、しんどい時は無理をせずに休むようにしましょう。

思い返せば、昨年・一昨年は、感染症対応で予定通りに学校生活が進みませんでした。せっかく決まっていた日程も変更に次ぐ変更で、大変な思いをしながら「あたり前の生活のありがたさ」を噛みしめた日々でした。

今年度も、感染症の状況は決して油断できないもので、いくつも制限がかけられていますが、それでも何とか年度当初の予定通りに学校が進んでいます。先週は久しぶりの授業参観、今週も2年ぶりの家庭訪問が実施されています。

学校長の話より

今年も「あたり前の生活のありがたさ」を忘れないために次のお話を確認したいと思います。

読売新聞に、ある中学生の詩「私の一番の幸せ」が紹介されていました。「毎日笑える事 楽しくすごせる事 あたり前に思えるけど幸せな事」と彼女は言います。「文字の読み書きができること、きれいな水が飲める生活にも幸福を感じる」と続きます。この詩を目にしたある婦人が地元紙に次のような感想を寄せたそうです。「“普通の生活” という ことばの ありがたみを 毎日感じて感謝しています」「あたりまえのことを書いてくれて 気づかせてくれて ありがとう」

あたり前のことに感謝できる心。それは「あたり前をあたり前と思わない」心ともいえます。世界に目を転じれば、読み書きができない15歳以上の人々は約8億人もいます。安全に管理された飲み水を使用できない人は22億人に上るといわれています。文字を使いこなせるようになるまでに、どれだけ多くの人の関わりが必要であるか。安心して水が飲める社会を支えるために、どれほどの人が汗を流しているか。私たちは、そこに思いをはせる心を失ってはいけません。心が大きければ大きいほど、他の人々の気持ちを受け入れることができます。大きい分だけ、喜びも感動もたくさん感じることもできます。いつも感謝で心を満たせる人は素敵な人だと思いますし、幸せな人だとも思います。「あたり前の生活のありがたさ」をいつも噛みしめながらの日々でありたいですね。

階段の踊り場や廊下の掲示板に、

3年生 進路選択が始まっています。

高校のポスターや奨学金のお知らせ、府内公立高校MAPなどが掲示されるようになりました。先々週から高校等の進路担当の先生が来校されています。(学校を訪れたお客様に挨拶がしっかりできるようにしてください。)3年生の皆さんは、今はまだ実感がわからないかもしれませんが、これからポ



スターやお知らせがどんどん増えていきます。お家の人や先生方としっかり話をする中で、正確な情報をもとに自分自身の進路は自分自身で決めていきましょう。また、1・2年生の皆さんもいずれは通る避けられない道です。今からできることをよく考えながら日々努力していきましょう。



修学旅行の取り組み



3年生は朝の学年集会で修学旅行の取組をしています。修学旅行実行委員会のメンバーが前に出て、持ち物のことをはじめ、様々なルールについて説明していました。この実行委員会は2年生の時から活動をスタートし、自分たちの修学旅行をより充実した思い出に残るものにするために頑張ってきました。後1か月半あまり、最後まで頑張ってお皆を引っ張ってくれることを期待しています。